

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドホープ上小島		
○保護者評価実施期間	2025年1月18日 ～ 2025年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年1月21日 ～ 2025年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されている。 放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	学校や保護者、本人の意見をなるべくリアルタイムで聞き取れるように、送迎時や来所時にヒアリングをできるだけ行っている。 各項目を網羅することで包括的な支援になるように心がけている。 外部機関と連携協力してなるべくいろいろな考え方が入るように心がけている	「認知の歪み→不適切な行動→社会の中で生きづらくなる」を下記のように変換していく取り組み。 「適切な認知への誘い・トレーニング→素直な認知へ→適切な行動への自発的な移行→社会の中での生きづらさの緩和」
2	保護者への説明等 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている。 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われている。 事業所の職員から共感的に支援をされている。	指導員が、子ども・保護者に共感をもって接することができるように、必要な情報提供や研修を行っている。	
3	満足度 子どもは安心感をもって通所している。 子どもは通所を楽しみにしている。		

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化が不十分	古民家であるため	現在、バリアフリーを必須条件とする利用者はいない。今後、利用者の状態に応じて、必要に応じてバリアフリー化をできるような建物に移転を検討中。保護者・児童に不都合がないように近隣で検討中。
2	定期的な保護者懇親会・療育情報提供会が開かれるようになっていないが、まだ日が浅い。	コロナの法的位置づけが変更になり、保護者懇親会・療育情報提供会を年1回定期的に開催することができるようになった。すでに昨年度から開催している。定着するまで今後も毎年開催することを続けていくことが望ましい。	開催の継続
3	児童館、公民館や公園で地域の他のこどもと活動する機会を設けたが、保護者に認知されていない。ブログでは公表している。	ブログで知らせる予定あり	引き続き活動予定表やブログで公開していく。
	災害に備えて定期的に訓練や備蓄品を保管している。保護者に周知予定。		